

問答連 第三十三号

哲学カフェ第三期

第三回 七月三〇日(日) 二時から四時まで

今よみがえる

「ブッダのこぼれ」

仏教の現代化のために

話題提供 大江矩夫

西洋的な合理主義があらゆる分野で支配的な考え方になっていきます。それによって人間の暮らしも豊かになりました。しかし、物質的な豊かさだけで人はしあわせになれるのでしょうか。『ブッダのこぼれ』(スッタパニータ)は、根源的な仏教の教えであるといわれています。そこに「真の豊かさ」を見出すことはできるのでしょうか。

仏教における「真の豊かさ」とは何でしょうか。様々な答えがありそうですが、私は心・精神と身体・物質的生活の調和・制御による永続的幸福・平安を確立すること(解脱・悟り・涅槃の境地)が「真の豊かさ」につながると考えています。

仏教の開祖ブッダ(シャーカー族出身)ゴータマ・シッタールタ)はインド思想の背景のもとで人生苦の根源を探り、修行瞑想を重ねて悟りを開き、生存の苦し

から解脱したと自覚しました。彼は苦楽を克服し永続的平安・幸福を獲得した傑出した聖人であるとともに、現代で言えば偉大な臨床心理学者でした。

科学の時代に生きるわれわれには、時代背景の異なる社会に生きたブッダのような生き方や考え方をそのまま適用することはできません。しかし、人生に起こる苦や煩惱を克服し、現代社会の諸問題を解決するために、ブッダの教えや智慧から多くを学ぶことができます。

とりわけ原始仏典は、ブッダの真意に近く、漢訳された仏典とは異なっており、科学的心理学の心の捉え方に類似しています。今や仏教は、日本では葬式と観光に特化して金儲けに走り、民衆の心の支えとしては不十分です。人類社会の平和と安定をめざし、日常生活と人生の意味づけに役立てるために、仏教を現代化することが必要です。そのための一助となることをめざして『ブッダのこぼれ』を読み解いてみます。(内容はネットで「仏教の現代化」を検索して下さい。)



第二回

リベラリズムの行き詰まり

の感想

みなさん一人一人のお話がとても面白かったです。政治的なことにもかかわる話は、どうかなく思っていました。文化の問題、情報の問題、自然のかわり、教育の問題など幅広い話題にお話がひろがり、世代のちがう人たちのお話が、とても刺激になりました。こういう場が大切だとあらためて感じました。(発題者 永井)

今日はありがとうございました。「リベラル」という言葉をよく聞きますがその言葉が他の言葉と結びつくことで、その全体の意味がわからなくなることがよくありました。でも今日「リベラル」という言葉の本来の意味を考えて「自由」とはなにか「平等」とはなにかを考えるきっかけになりました。一つの事柄について深く、またいろんな方の話を聞きながら「考える」ということを久しぶりにした気がします。ありがとうございました。

リベラリズムとコミュニタリアリズムをめぐる議論を皮切りにそこから射程遙かに様々な現代世界の問題について話し合つともエキサイティングな場。皆さんのこれまで生きてこられた哲学が大切な想いとともに関わりあわされて、素敵な場に居合わせることができて、とても嬉しく、大いに学ばせていただきました。同じように世の中についてかんがえているように見えて、世代によってこま

でアクチュアリティが異なるのか、ということがまず一番の驚きでした。同じ町に住んでいるのに、まったく異なる世界感覚で生きているのだなあと…。自らの世界に閉じこもって一貫性をもちつつけることで世界を納得するのは簡単なこと。様々な考え方に頭と心を外に開いて、世界が複数に同時にあることを寛い心で感じつつ、それぞれが学びあっていることの大切さをつよく想うことができた、素晴らしい機会でした。いつも貴重な機会をいただき本当にありがとうございます。

リベラリズムを中心とする問題提起は、私も関心を持っていて西洋思想の重要分野なので、とても興味深く拝聴しました。自由主義も共同体主義も多義的な概念なので一概に論ずることはできませんが、近・現代を貫く社会思想なので、これらの思想の人的意義と限界を説明することなしに、新たな未来社会を展望することはできないと思います。その意味で話題提供者が、個人主義的自由主義（個人の権利と選択の自由・サンデルの引用）を批判的に捉えて、道徳や宗教、正義以外の善や連帯について考えることの必要性を示唆しておられるのは共感します。さらに私的には、個人主義や自由主義の背景となった「西洋的合理主義の限界」についても問いたいと思います。参加者の発言からも、日本の家族や途上国の感性についての事例提供があり、自由と理性だけで社会が成り立っていないという感を強くしました。このような西洋近代主義（の限界）についての議論が、哲学カフェでさらに深まることを期待しています。

齢七〇に近づいて越し方を考えてみると、まさに「戦後民主主義」の只中に生きてきたと、改めて実感します。「リベラル」こそ日本の民主主義を育てあげるものだと思いがちで疑いませんでした。ですから「共同体（コミュニティ）」に囚われていて個人からいかに脱出するかが課題でした。しかし、「世間」のしがらみに生きているのが日常的なことです。この二つのバランスをどうとるのかというのが大きな問題だと想います。永井さんの問題指揮もそこにあっただけではと…。

これまで、「主義と主張」はワンセットのように思っていたけれど、最近は政治家の発言も、ネット上で飛び交う様々な言論（と言えるのかな？）も、どこに背骨があるんだらうと感ずることが多く、そういう意味ではリベラリズムを含め 主義に基づく「ことば」というのは「絶滅危惧種」のようなものなのかも…。守るべきか、自然淘汰されるのか…。

なんかこの哲学カフェに寄せていただいているが、今回はいつものように平均年齢が高くありませんでした（笑）。というのも海外で活躍されている若い方、まだ十分離乳していない子どものお父さんなど、世代を超えた人たちの集まりでした。こうした方々のお話を聞くと、なんだか「柔らかな思考をするように」と促されているように団塊の世代には感じられました。



お詫びと今後の予定

予定では【第四回】を「会場の皆さんから自由なテーマを募ります」として【私の哲学カフェ】を予定していましたが、急遽次のように変更させていただきました。ご予定されていた皆さまには大変申し訳ありませんがご容赦ください。

【第四回】八月二十六日（土）二時から四時

【子ども観・多文化からの視点】（交渉中）

英国・仏国・独国のお父さん、お母さんをゲストにパネルディスカッション。各国の「子ども観」を話していただきます。そして、そこから見える日本の「子ども観」を再検討します。日本語で…。

【第五回】九月二三日（祝・土）

【お金って何だろう】

ゲスト：野崎康夫さん（「問答連」世話人）

【第六回】一〇月二八日（土）

【医療から見る「死」】

ゲスト：住田剛一さん（開業医）

会場の「案内」

哲学カフェ「問答連」の会場は、毎回

「ムーレック」にて行います。参加費

はワンドリンク注文でお願いしています。

JR京都駅から（約三〇～四〇分）

市バス二六番『等持院南町』。

市バス五〇番『北野白梅町』下車、徒歩約6分。

京阪三条駅から（約三〇分）

市バス一〇番『等持院南町』。

市バス一五番『北野白梅町』下車、徒歩約6分。

